

第3回鳥取駅周辺リ・デザイン会議 議事概要

- 1 日 時 令和6年1月16日（火）14時～16時
- 2 場 所 鳥取市役所本庁舎市民交流棟 2階 多目的室1
- 3 議事内容

【市長あいさつ】

第3回鳥取駅周辺リ・デザイン会議にご出席いただき、感謝申し上げます。元旦に能登地方では大きな地震が発生し、甚大な災害が発生した。鳥取市でも1月6日に職員を送り、支援を行っている。長丁場となるが、市としても引き続き取り組んでいきたい。

昨年は全国各地で自然災害が多発し、年々激甚化・頻発化している。今回議論する鳥取駅は、鳥取市はもとよりたくさんの方が行き交う場所であり、賑わいを創出すること、安全な場所として考えていくことの必要があると感じている。

本日は、第1回、第2回で議論いただいた意見も踏まえながら、鳥取駅周辺の再生の位置づけやコンセプトを分かりやすく説明し、活発に議論いただきたい。

【議題（1）鳥取駅周辺再整備のビジョン・位置づけについて 意見交換】

資料により説明（資料P1～3）

1. ビジョン・位置づけについて

- ・ 目指す将来像について、最後のステーションという言葉の説明が「創造拠点」と、体言止めとなっているのが、その他の言葉の説明と異なっており、違和感がある。迫力のある表現にした方が良い。
- ・ 多極ネットワーク型コンパクトシティは非常に重要であり、人口減少の問題を抱える鳥取市、その中心の鳥取駅周辺において、まちづくりの方針を基本計画で分かりやすく記載してほしい。
- ・ 麒麟のまち圏域の中心として、鳥取駅に人が集い、駅が舞台となってまとまることを分かりやすく、方向性を位置づけた方が良い。

【議題（2）鳥取駅周辺再整備の基本方針・イメージについて 意見交換】

資料により説明（資料P4～13）

1. 駅とまちなかとの連携強化の必要性

- ・ 今後の具体的な検討では、様々な動線においてベビーカーや車いすが物理的に移動しやすいことにも配慮が必要。
- ・ ウォークブルは公共空間を繋ぐことが必要だと考えており、市内の城跡や市役所跡

地、川沿いなどの公共空間をモビリティで繋げていくことが必要。中心市街地のウォークアブルのビジョンも連携しながら一緒に検討できると、より良いものになる。

- ・ 駅で全てを完結させずにまちなかへ人が流れてくるようなまちづくりを進めることが必要であり、駅周辺の整備が駅だけで終わらないようにすることが重要。
- ・ 整備内容によって歩行者のネットワークがどのようにまちなかへ染み出てくるのが、変わってくる。無味乾燥なコンクリートではなく、駅と同じコンセプトをもった歩行空間があってもよいと思う。
- ・ 駅の機能には、鉄道を使わない人も駅へ来る目的を作ることが必要であり、駅がどのようにまちとつながり、ウォークアブルの範囲はどこまでか、つながりを示していくことが重要。
- ・ 将来的な次世代モビリティの導入も含めて今後議論していきながら、柔軟に対応できる構造を考えていくことが必要。
- ・ 次世代モビリティは言葉だけでなく、中心市街地への移動とも密接に関連するため、計画書には方向性も記載できるとよい。
- ・ 駅北側からバード・ハットまでは単なる歩道橋で終わらせず、周辺施設との連携・連続が見えるデザインや見せ方が必要。しっかりと幅をもたせたゆとりのある歩道橋などが良い。

2. 駅北側と南側の連携強化と交通の円滑化

- ・ 南北軸の強化は公共交通や一般交通など交通の円滑化に繋がると思うため、今後の議論で消えずに残していきたい。
- ・ 周辺交差点2か所が主要渋滞箇所と位置付けられているが、バス通行量も多く、バスターミナル出入口交差点の輻輳など、渋滞解消に向けて、来年度の調査も国交省として協力できることはしていきたい。

3. 駐車場機能のあり方

- ・ 鳥取市は車社会のため、立体駐車場は必要。鳥取駅周辺は、平面駐車場が分散して分かりづらいという課題があり、立体駐車場の意見は盛り込んでいただきたい。また、駐車場から駅施設や商業施設へ一体的に移動できるようになることが理想的である。
- ・ 駅の南側に駐車場ができるイメージになっているが、出来れば駅北側に駐車場があるとよい。仮に、駅南側に駐車場を設けるとしても丸由百貨店等まで人が移動できるように工夫してほしい。
- ・ 駐車場は収益となる賃料と駐車場代が課題。例えば、1階をタクシー、2階をライドシェアとするなど、屋内で幅広く機能を高度化させることも考えられる。マネジメントも含めて、踏み込んで考えていきたい視点。

4. 公共・公益施設のあり方

- ・ インキュベーション施設は、既存の若葉台にある施設との棲み分けをどう整理していくかなど検討がまだまだ必要。駅に全てを集約することで本当に市民や利用者が使いやすいくなるのか、順序立てた検討も必要。
- ・ インキュベーション施設はイメージが沸きにくく、鳥取駅でどのような施設をイメー

ジしているのか、引き続き、事例も踏まえて検討が必要。

- ・ 公共公益施設を駅に集約していくことは、民間事業者や市民の関心度を高めることに繋がっていくと思う。民間や市民の関心度を上げることが重要と考える。
- ・ 公共公益施設に何を入れるのかについては、県や市で棚卸をしてリストを作成し、財源なども含めて、検討していくという事も進め方としてはありうる。
- ・ 機能一覧表の文化施設と、9ページの“国内外のコンベンション機能”について、資料の整合性を図っておくこと。

5. 民間活力に向けた今後の取組

- ・ 官民連携の複合施設をどうしていくかがポイントになる。賃料を踏まえると、建ぺい率を最大化していく必要があるが、PPPなど民間との組み方が進めるうえでは重要。
- ・ PPPの手法をどのようにして取り入れ、実現していくかが大きなポイントである。来年度以降、サウンディング調査なども行うため、日常的なにぎわいを創出していく施設のあり方を議論していきたい。
- ・ まちづくりマネジメント機能は、管理やイベントなどのにぎわいの調整を担う役割や誰が参画してくれるか、イメージを持ちながら考えることが必要。
- ・ インキュベーション施設にニーズ等の懸念があるのであれば、既存の施設で試行的にやってみて、ニーズや担い手、法令上の課題などを明らかにする「トライアルサウンディング」という手法も有効であるため、検討してみたい。
- ・ 駅周辺の再整備がなされるのは10年後になると思う。そこを見据えて、高校生や若い世代のワークショップやアンケートを行うことが必要。
- ・ 今後は駅と繋がる公共施設や中心市街地の会議など、会議体を横に繋ぐなどの進め方の工夫も必要。

6. 機能の多様性や戦略的なデザイン

- ・ 駅での活動や取組は、駅内にある松井ウイスキーやまちパル鳥取のようなブースが入るものとイメージした。鳥取のものを買いたい人がシームレスにいろいろな選択肢を持てる商業施設があると良い。
- ・ 地元企業が新しい商品を売り出す場やワークショップ等のイベントを、安い地代で使えるような空間を創り、地域と連携して進めてほしい。
- ・ 複数種類の日本酒が飲めるような来訪者が興奮するイベントを鳥取でもしたい。民間企業に関心を持ってもらい、手を挙げてもらえることが理想。
- ・ 機能の配置において、機能をひとつだけで考えない方が良く、ガラス張りの「見せる」デザインとするなど、空間をデザインや使い方も含めて、意識することで波及する効果が期待される。特に今のバスターミナルは人が見えないため、人を見せる戦略が必要。
- ・ イノベーションは場所が重要である。企業内にいるイントレプレナーが集まれるような機能があるといいと思う。大都市では企業内での承認に時間がかかるケースでも、鳥取規模の都市の方が早く進められる分イノベーションが起こる可能性も期待される。